

2018年（平成30年） 6月8日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

5/24~5/30のNYMEX・WTIは、66.73~70.71ドルの範囲で大きく軟化して推移した。

5月31日は、一日遅れて発表された米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫が前週比360万バレル減と市場予想(同50万バレル減)大きく上回り取り崩されたものの、ガソリン在庫は50万バレル増(市場予想:同140万バレル減)、中間溜分在庫が60万バレル増(市場予想:同130万バレル減)と積み増しされたこと、また、サウジに近い湾岸筋の話として、協調減産は年末まで実施されるが、供給不足防止のため段階的な生産調整の必要があると報じられたことから、需給の引き締め感が後退し反落した。7月限の終値は前日比1.17ドル安の67.04ドルだった。

週末6月1日は、ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が861基(前週比2基増)と2015年3月以来の高水準となったこと、前日のEIA週報で、5月の米国産油量が日量1047万バレルと記録的水準となったこと、さらに、良好な米国雇用統計結果でドル高・ユーロ安が進行し原油先物に割高感が出たことから、続落した。7月限の終値は前日比1.23ドル安の65.81ドルだった。

週明け4日は、先週の流れに加えて、WTI原油の受渡点クッシングの原油在庫が前週比21万バレルの積み増しとなったこともあり、続落した。7月限の終値は前日比1.06ドル安の64.75ドルと、65ドルを割り込み、4月上旬以来約2ヶ月ぶりの安値をつけた。

5日は、イランの最高指導者ハメネイ師が核燃料濃縮再開準備を指示したとの報道を受け中東における地政学リスクの高まりが意識され、反発した。7月限の終値は前日比0.77ドル高の65.52ドルとなった。

6日は、EIAの米国在庫週報で、原油・製品とも市場予想を上回る大幅な積み増しが報告されたことから、反落した。ただ、ベネズエラが一部輸出原油について不可抗力条項発動を検討中との報道が下値を支えた。7月限の終値は0.79ドル安の64.73ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(7月渡し)は、前週73.40~77.00ドルの範囲で推移した。5月31日75.20ドル、6月1日75.00ドル、4日74.10ドル、5日73.20ドル、6日73.90ドルで推移した。

為替は、前週108.41~109.69円の範囲でやや円高で推移した。5月31日108.70円、6月1日108.94円、4日109.66円、5日109.92円、6日109.83円で推移した。

財務省が7日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、5月中旬の原油輸入平均CIF価格は、49,011円/klとなり、前旬を2,424円上回った。ドル建てでは71.21ドルで前旬比2.68ドル高。為替レートは1ドル/109.41円。

主要元売会社の6月第2週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0~1.5円の値下げとなった。

原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、6月4日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.1円の値上がり、軽油も同1.0円の値上がり、灯油は同13円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは7週連続の値上がりで、2014年1月15日以来の高値、本年の最高値を6週連続で更新した。軽油も7週連続の値上がり、灯油も7週連続の値上がり(18%ベース)だった。この週(6月第1週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと1.0円の値下げに分かれた。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/27 ~ 6/2	2,988 ▼ -58	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.3 ▼ -1.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	6/2	13,634 ▲ 764	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/4	72.99 ▲ 1.58	▲ 23.5
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/4	64.75 ▼ -1.98	▲ 17.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月中旬	71.21 ▲ 2.68	▲ 17.26
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	49,011 ▲ 2,424	▲ 11,169
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.41 ▼ -1.32	▲ 2.11
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/4	110.66 ▼ -0.13	▲ 0.83

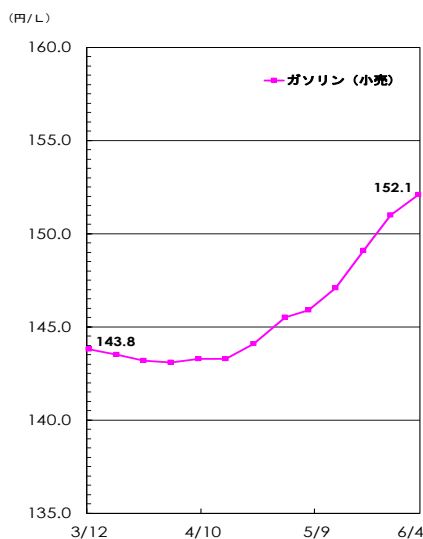
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/27 ~ 6/2	893 ▼ -29	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	805 ▼ -82	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -48	▼ -	
	在庫	6/2	1,854 ▲ 89	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/29 ~ 6/4	68.4 ➡ 0.0	▲ 18.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/29 ~ 6/4	64.0 ▼ -1.9	▲ 14.2
		(TOCOM/中部)	6/4	64.5 ▼ -0.5	▲ 16.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/4	152.1 ▲ 1.1	▲ 20.4	

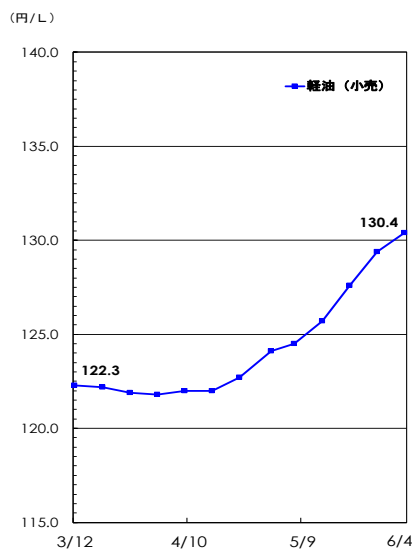
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

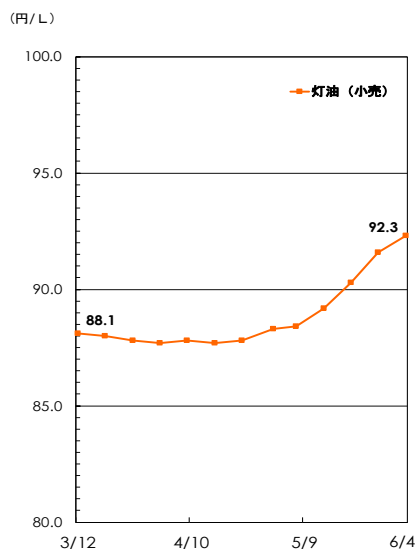
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/27 ~ 6/2	719 ▼ -9	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	617 ▼ -112	▲ -	
	輸出	"	95 ▲ 5	▼ -	
	在庫	6/2	1,470 ▲ 7	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/29 ~ 6/4	69.7 ▼ -0.1	▲ 21.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/29 ~ 6/4	67.9 ▼ -0.2	▲ 19.9
		(TOCOM/中部)	6/4	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/4	130.4 ▲ 1.0	▲ 19.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/27 ~ 6/2	92 ▼ -96	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	86 ▼ -49	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	6/2	1,518 ▲ 6	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/29 ~ 6/4	69.0 ▲ 0.1	▲ 21.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/29 ~ 6/4	65.9 ▼ -1.1	▲ 20.3
		(TOCOM/中部)	6/4	66.5 ▲ 0.5	▲ 21.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/4	92.3 ▲ 0.7	▲ 15.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月6日のNYMEX市場WTI原油は、朝方まで、経済危機に陥ったベネズエラが一部の原油輸出について不可抗力条項の発動を検討中である旨の報道受け、強含みであったが、その後、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比210万バレル増と市場予想(同180万バレル減)に反し積み増し、ガソリンも同460万バレル増、中間溜分も220万バレル増と、市場予想を大きく上回って積み増しとなったことから、米国における供給過剰感が再認識される形で、反落した。また、サウジを中心とする湾岸産油国石油相がジェッタで会談し減産緩和を話し合ったとの報道も、値下がり要因となった。7月限の終値は前日比0.79ド

ル安の64.73ドル、8月限の終値は前日比0.76ドル安の64.70ドルだった。

EIAによると、6月4日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.2セント値下がりの1ガロン2.940ドル(85.8円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.3セント値下がりの3.285ドル(95.9円/ℓ)。ガソリンは4週ぶりの値下がり、ディーゼルは11週ぶりの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年5月27日～6月2日に休止したトッパー能力は68.0万バレル/日で、前週に対して5.6万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は298.8万klと、前週に比べ5.8万kl減少。前年に対しては7.2万klの減少。トッパー稼働率は76.3%と前週に対して1.5ポイントの減少、前年に対しては1.8ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてA重油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/3.2%減、ジェット/13.2%減、灯油/51.0%減、軽油/1.2%減、A重油/7.6%増、C重油/17.1%増。今週のC重油の輸入は6.9万kl(前週比1.7万kl減)。軽油の輸出は9.5万kl(前週比0.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェット、軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は80.5万kl(対前週9.3%減)と前週比で2週振りに減少となり、10週連続で100万klを下

回った。

ジェット11.7万kl(対前週30.7%増)、灯油8.6万kl(対前週36.2%減)、軽油61.7万kl(対前週15.3%減)、A重油14.5万kl(対前週29.4%減)、C重油19.8万kl(対前週6.2%増)。

(単位:千KL)

	今週 (5/27 ~ 6/2)	前週 (5/20 ~ 5/26)	前週比
ガソリン	805	887	▼ -82 (-9%)
ジェット燃料	117	87	▲ 30 (34%)
灯油	86	135	▼ -49 (-36%)
軽油	617	729	▼ -112 (-15%)
A重油	145	205	▼ -60 (-29%)
C重油	198	186	▲ 12 (6%)
合計	1,968	2,229	▼ -261 (-12%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月2日時点の在庫は、ジェットで取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、灯油とC重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは185.4万kl、前週差8.9万kl増。前年に対しては13.0万kl少ない。

灯油は151.8万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては16.8万kl多い。

軽油は147.0万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては10.8万kl少ない。

A重油は77.6万kl、前週差1.5万kl増。前年に対しては4.1万kl少ない。

C重油は210.5万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては2.9万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (6/2)	前週 (5/26)	前週比
ガソリン	1,854	1,765	▲ 89 (5%)
ジェット燃料	1,001	1,062	▼ -61 (-6%)
灯油	1,518	1,512	▲ 6 (0%)
軽油	1,470	1,463	▲ 7 (0%)
A重油	776	761	▲ 15 (2%)
C重油	2,105	2,091	▲ 14 (1%)
合計	8,724	8,654	▲ 70 (0.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月29日から6月4日の原油価格は、前週対比で値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは大きく値下がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、5月29日から6月4日までの間、ガソリン121～122円台で値上がり後やや値下がり、軽油69円台でほぼ横ばい、灯油68～69円台で出入り後わずかに値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン122～123円台で

値上がり後横ばい、軽油69～70円台で値上がり、灯油66～67円台で値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン117～118円台で出入り激しくやや値上がり、軽油67～68円台で値上がり、灯油64～66円台で出入り激しく値上がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0～1.5円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、先物は全て値下がりしたが、海上・先物は油種により、値上がり、横ばい、値下がり、まちまちであった。

6月第2週(6月7日～6月13日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月29日～6月4日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは横ばい、灯油は0.1円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.6円の値下がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.7円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが1.9円の値下がり、灯油は1.1円の値下がり、軽油は0.2円の値下がりだった。原油価格は値下がりし、為替は円高で、原油コストは大きく値下がりした。

6月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0～1.5円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (5/29 ~ 6/4)	前週 (5/22 ~ 5/28)	前週比
レギュラー	68.4	68.4	→ 0.0
灯油	69.0	68.9	▲ 0.1
軽油	69.7	69.8	▼ -0.1

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (5/29 ~ 6/4)	前週 (5/22 ~ 5/28)	前週比
レギュラー	64.0	65.9	▼ -1.9
灯油	65.9	67.0	▼ -1.1
軽油	67.9	68.1	▼ -0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/29～6/4実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	→ 0.0	▼ -1.9	▼ -1.0
灯油	▲ 0.1	▼ -1.1	▼ -0.5
軽油	▼ -0.1	▼ -0.2	▼ -0.2
A重油	▲ 0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月4日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.1円高の152.1円、軽油は同1.0円高の130.4円、灯油は同0.7円高の92.3円(18%ベースでは同13円高の1,662円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに、7週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは43都道府県、横ばい1県(鳥取県)、値下がり3県(三重県・香川県・富山県)だった。全国最安値は徳島県の144.5円(同0.8円高)、次が埼玉県の148.0円(同1.7円高)、最高値は長崎県の160.9円(同2.3円高)だった。最も値上がりしたのは、5.2円高の高知県(153.9円)、最も値下がりしたのは、0.3円安の三重県(151.8円)だった。

先週の原油コストは大きく値下りし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0～1.5円の値下げに分かれた。7週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートも円高で、原油コストは大きく値下がりした。次週(6月11日)のガソリンの小売価格はわずかな値下がり予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (6/4)	前週 (5/28)	前週比	直近高値
レギュラー	152.1	151.0	▲ 1.1	08/8/4 185.1
灯油	92.3	91.6	▲ 0.7	08/8/11 132.1
軽油	130.4	129.4	▲ 1.0	08/8/4 167.4

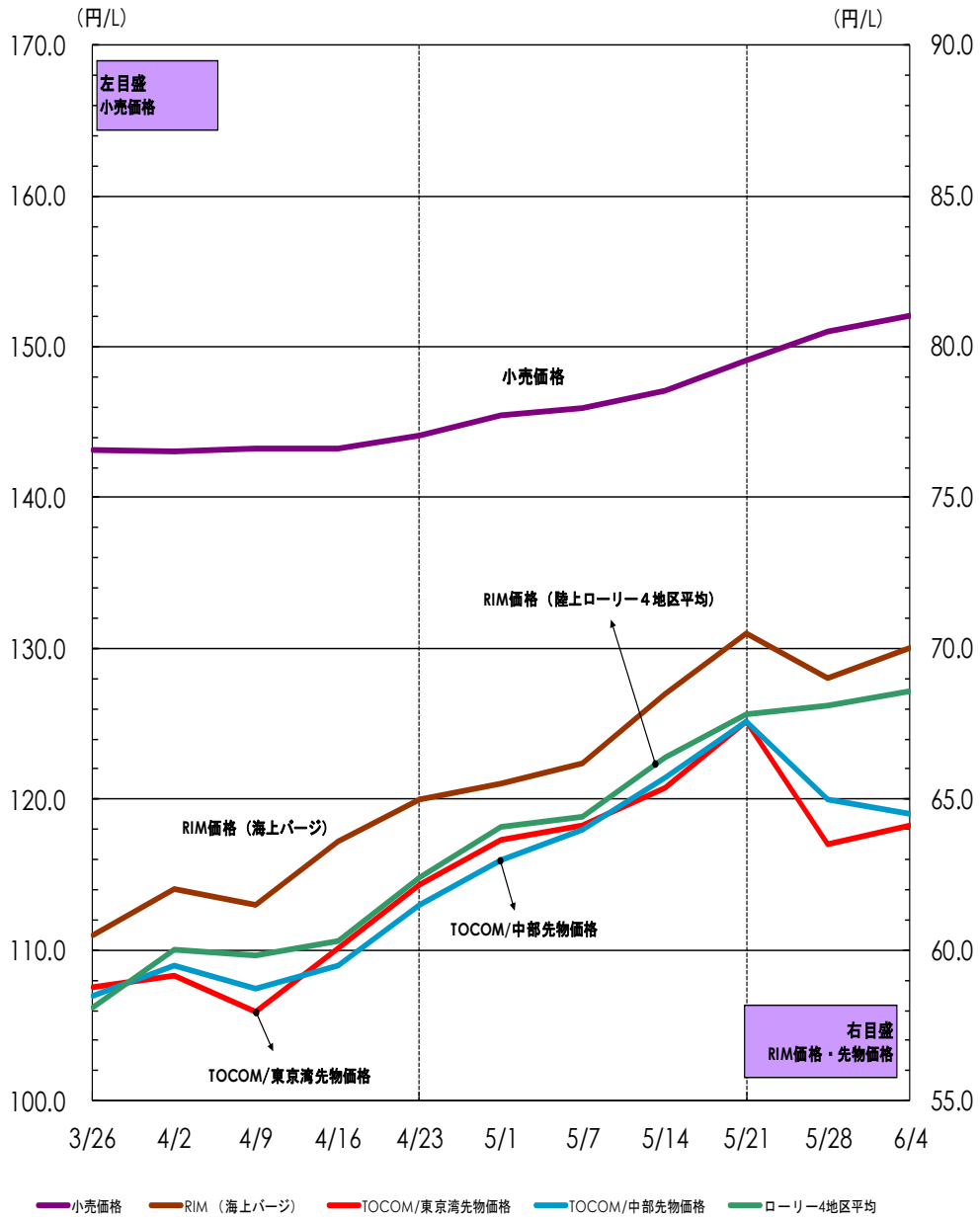
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/3/26 ~ 2018/6/4)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iecej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第10号)の公表は、6/15(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。